

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401722		
法人名	医療法人社団 向仁会		
事業所名	グループホームよろこびの家 栄景 1階		
所在地	北海道函館市松陰町1-43		
自己評価作成日	平成29年1月20日	評価結果市町村受理日	平成29年2月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosoCd=0171401722-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成29年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自由・笑顔・安心」を理念とし、職員一人一人が理念に則り日々業務に努めております。又、住宅街に位置していることから普段より近隣住民とのコミュニケーションが図れております。行事等開催時には近隣住民の参加もあり日々地域密着に力を入れております。委員会等も定期的に開催しており、「事故防止委員会」「身体拘束廃止委員会」「入居判定会議」等情報の共有、サービスの向上に取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

函館観光名所の五稜郭に位置し、杉並町電停近くの閑静な住宅街に木造2階建て2ユニット(定員:18名)の母体の医療法人が運営する総合福祉施設の中のひとつのグループホームです。函館の伝統ある女子高校の生徒達が年2~3回慰問に訪れ、利用者との交流や聖歌を披露してくれたり、花見の時期には利用者を迎えに来てくれて花見につれて行ってくれている。また、地元工業高校の生徒たちの合唱や吹奏楽の演奏会には、地元の人達も来訪して一緒に楽しんだり、幼稚園児や小学校生徒の慰問など地域の人々との交流・連携に取り組んでいる。楽しみごとや戸外に出かける支援では、四季の杜への花見やドライブ、函館牛乳への見学会や外食など気分転換を兼ねて戸外に出かけたり、七夕祭りやクリスマス会、敬老会やひな祭りの開催など楽しみごとへの支援をしている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由・笑顔・安心」の3つの理念を掲げ、入居者様、御家族、地域住民、職員に対し共有出来る覚えやすい親しみのある理念を実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、その理念を達成するために毎月、具体的な目標を掲げ、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や行事(誕生会等)に入居者様をはじめ、地域住民の方の参加もあり交流を図っている。	函館の伝統ある女子高校の生徒達の年2~3回の慰問や地元工業高校の生徒たちの合唱や吹奏楽の演奏会には、地元の人達も来訪して一緒に楽しんだり、幼稚園児の慰問など地域との交流・連携に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を主とし最近では、「認知症サポーター養成講座」を取り上げ地域の包括支援センターに依頼、講演して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1度(年6回)開催し、会議には町会、包括職員、保健所職員、入居者様御家族など外部の方々にも参加して頂き毎回様々なテーマをもとにサービス向上に活かしている。	定期的に運営推進会議を開催して、事業所の取り組みや日常生活の様子等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を主とし連携を図っている。又、市が主催する研修や講演への参加を通じ協力関係を築いている。	市担当者及び包括支援センターとは、研修会参加や日常業務を通じて助言や指導を得ながら情報交換して、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で「身体拘束廃止委員会」を設置し、委員会を中心に日頃から身体拘束となるようなケアは行っていない。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止等の内部研修会を開催して、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会でも虐待については取り上げ防止に努めている。又、運営推進会議等でもテーマとして取り上げ意識付けを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に運営推進にて2度取り上げている。現在は活用するまでに至っていないが、今後備え必要性を考慮した上で勉強会等で取り上げ職員への反映を行っていききたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、現在、法人内にて「入居判定会議」を開催しておりそこで入居の可否を決めている。その上で契約の説明、同意を得た上で締結を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情相談窓口」を設置し当ホームに関する意見や苦情を集めそれらをスタッフ会議等に反映させ必要であれば経営者へ報告し指示を仰いでいる。	苦情等の第三者機関の相談窓口を明示し、申し出ができるようにしている。また、本人・家族等が意見や苦情等を言い表せるように機会を設け、そのでの意見等を運営に反映できるようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的(月1回)に開催し、職員より意見を汲み取っている。そこでの希望や意見等を経営者に伝え運営に反映、実施している。	日常業務やミーティング、個人面談の実施等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日頃から職員の勤怠状況、勤務状況等に目を配り、実績を給与に反映している。又、昇給や昇格への判断材料とし昇給・昇格試験の実施も行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修や講演への参加に少しずつだが参加している。又、昨年は理事長主催の研修会も行われ職員のスキルアップ取り組みに力を注いでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	GH協議会やブロック会議等を通じ、様々な研修に参加する事で情報の共有、サービスの質向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の申し込みを頂いた時点で、本人様、その御家族様に対し入居する上で少しでも不安や悩みを解消して頂けるよう面談時など力を入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり面談を行う際は、入居に至る経緯やその背景に十分気を配り、出来る限りご家族の要望に添えるよう信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には初期プランを作成、実践する事で本人様が何を求めているか何を必要としているかをケアマネージャーを中心にスタッフで共有しながらケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員一人ひとりが理念を常に頭に入れ「自由、笑顔、安心」を決して損ねないようグループホームらしさを介護を通じ関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様も入居者様同様の目線に立ち支援する事に努め、職員、御家族様、本人様の関係を共有出来るよう介護計画を中心に築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際に最も重要視している事である。環境変化に対する不安、疎遠を少しでも軽減出来るよう馴染みの人、物の関係に対し少しでも途切れないよう支援している。	散歩や買い物、友人・知人の訪問支援、地域の行事参加や地元の人々との交流を通じて馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員との関わりはもちろん、入居者様同士の関わりに重視している。ある入居者様は馴染みの方が出来た事で生活に活気が出ている。職員は話題を提供する事で入居者同士孤立がないよう日々支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了が決まる前後に本人様に必要な支援(他サービスの利用)等を考え本人、御家族様に適当なフォローを提供している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様、御本人様や御家族様の思いを受け止めケアプランに反映させ、又日々変動する思いや希望をアセスメント、ケアカンファレンス等により検討する事で常に本人本位のケアを行っている。	日常のさりげない会話や生活歴の把握で一人ひとりの希望や意向を職員間で共有して、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御本人や御家族様から聞き取りを行い作成したフェイスシートを常に参考にしながら御本人にとって馴染みの環境が継続できる様に職員全体で努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの日々の暮らしや体調、精神状態の変化等現状の把握をする事によりその人がその人らしくベストの状態与生活出来る様に職員全体が努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様、御家族様、主治医、看護師、職員等参加の元サービス担当者会議を実施話し合いの元ケアマネージャーが介護計画を作成し定期的モニタリングを実施する事でより現状に即した介護計画の見直しを行っている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や要望、医師・看護師からの指導や助言、カンファレンスやモニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った事柄や日々の様子、ケアの内容等わかりやすく介護記録に記載する事で職員間で情報を共有しながら日々のケアに活かしていきながらケアプランの見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	市内に同一法人の施設があり入居者様の状況や新しいニーズに多方面に渡り対応出来る。柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人様の状況に応じて福祉事務所、包括支援センター等の行政機関と連携を取り必要な支援をしている。又、定期的に運営推進会議を開催し町会や消防、地域包括支援センター		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、御家族の希望のかかりつけ医と常に連携を取り定期的往診の介助や受診が必要と判断した場合には御家族への報告をすると共に依頼のあった場合には受診介助を行っており日々適切な医療が受けられるように支援している。	受診は本人及び家族等の希望するかかりつけ医となっている。また、往診や訪問看護の利用、通院への支援や日常の健康管理で適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に設置している「函館ファミリークリニック」より24時間体制で医療的な指示や助言を仰ぐ事が出来る。又、毎週火曜日に訪問され健康管理指導が実施され入居者様の健康状態の管理、把握が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を主とし入居者様一人ひとりかかりつけの病院を持っており、入退院に関してはスムーズに行うことが出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約時にも説明しており又、重度化に至る前に御家族様、主治医、看護師との相談を行い医療的な治療の必要性や看取り指針での対応など早期に対応出来るよう努めている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら職員間で指針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応、応急処置などに関する講習を受講している職員もおり、それを活かした勉強会も行われ職員全体が把握している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回(半年に1回)実施しており日中・夜間想定にて行っている。又、近隣の町会の参加もあり地域密着にて訓練に取り組んでいる。	消防署の協力を得て、年2回夜間を想定した通報訓練や火災避難訓練を実施している。また、緊急時の対応や応急処置など実践力が身につくよう研修も行われている。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への声掛け(言葉遣い)には日々特に気をつけており、敬う気持ちを大切にしている。又、書面(記録等)でもプライバシーに配慮した記載を常に心掛けている。	接遇等の内部研修会開催で一人ひとりの尊厳や誇りを損ねないよう職員間で共有し、言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望など意思を表出できる方については職員誰に対しても気兼ねなく話せる日々働きかけている。意思を伝えられない方については表情など様子で汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	理念にもあるように自由な姿で頂く為に、個々のペースに合わせ共同生活に支障がない程度で希望に合った生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感に合った容姿をして頂く為に、一人ひとり配慮している。又、自己決定も大事にして頂く為に買い物時等個々の好みの物を購入して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は基本的に職員で考え提供するが、季節や行事に合わせた旬の物を取り入れたり一人ひとりの嗜好を大切にしながら食事の準備を行っている。月に1回程度は出前も利用しており普段と違った食事の提供も行っている。	摂取カロリーや栄養バランスを考慮した献立表を管理栄養士が作成している。また、一人ひとりの力を活かしながら、食事の準備や、後片付け、食器拭き等を職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分摂取量に合わせ味付けや量の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前のうがいを行う事で口腔内の洗浄、風邪予防も兼ね毎日行っている。又、毎食後は義歯の方も含め歯磨き行って頂き清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	羞恥心に配慮した上で気持ちの良い排泄をして頂く為に、常に排尿パターンを意識した声掛け、誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮しながら声かけや誘導等でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便リズムを把握した上で食事、水分量に配慮し便秘を起こさせない取り組みを行っている。又、下剤だけではなく飲料にて排便を促し極力下剤に頼らない排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	曜日や時間を決めた入浴は行っておらず、一人ひとりの希望に合わせた入浴支援を行っている。又、馴染みの入居者様同士であれば一緒に入浴される事もある。1階には一般浴と併せて特殊浴槽も設置しており身体状態に合わせた入浴介助を行う事が出来る。	入浴日は、設定しておらず一人ひとりの希望やタイミングに応じて週2～3回を目安に入浴支援をしている。また、拒否の強い本人にも柔軟な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床の時間は決めておらず個々の睡眠リズムに合わせてそれぞれ促している。又、昼夜逆転を防止する為にも昼寝など取り入れ適時で起きて頂く事で睡眠のバランスを取っている入居者様もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時や往診時の主治医からの指示、お薬情報等から服薬方法の把握に努めている。又、状況により医師、看護師へ指示を仰ぎ対応を相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や得意分野を活かし残存能力を損ねないよう家事作業の中で活かして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々、天候を考慮した上で散歩やドライブ、買い物等外出行っている。受診との兼ね合いもあるが、出来る限り希望に添えるよう支援している。	楽しみごとや戸外に出かける支援では、四季の杜への花見やドライブ、函館牛乳への見学会や外食など気分転換を兼ねて戸外に出かけたり、七夕祭りやクリスマス会、敬老会やひな祭りの開催など楽しみごとへの支援をしている。	グループホーム内だけでの食事にこだわらず、外食の頻度も多くできるよう検討しているので、その実践に期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については全て職員で行っている。買い物時レジの前では本人にお金を手渡し実際に払って頂く事もあり買い物をしているという認識を持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族や御友人との電話のやり取りは日常的に行われている。又、年末年始は年賀状の送付も行っている。1階には公衆電話も設置してありいつでも外部の方との連絡を取る事が出来るようになっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には植木や花といった植物を置くことで生活感や季節感を味わって頂く。又、ホールには大きなソファを設置する事で誰でも気兼ねなくくつろげる空間を作っている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間では、職員と利用者の談笑や笑い声が絶えず明るく、季節に合わせた飾りつけや生活感を採り入れて、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、食堂と好きな場所でお話されたりお茶を飲んだり一人ひとりが好きな場所で過ごせるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた馴染みを物(写真や家具等)をいくつか置くことで居心地良く慣れ親しむ事が出来る居室を作っている。	居室には、使い慣れた家具や寝具が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。また、2階のベランダからは、周辺の景色が眺められる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な空間作りに努めており、リハビリなど簡易なものを出せる方にはして頂いている。事故等防止の為、入居者様に合わせた環境作りを行っている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームよろこびの家 菜景 1階

作成日: 平成 29年 2月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	14	協議会開催の研修やブロックでの研修等多々あるが、業務都合上出席出来ない事が多い。	出来るだけ外部の研修へ出席し情報を取り入れ自施設へ反映、勉強会を開催していきたい。	研修への参加が出来なくとも他出席者から情報を聞いたり、研修資料だけでも頂き情報収集に努めていきたい。	1年
2	49	食事について現在は様々な献立を考え季節に合った旬の物等取り入れたり、月に1回程出前を頼むなど行っているが、外食など違った環境の中での食事がほとんど取り入れられていない為、入居者様への刺激が不足している。	ホーム内だけでの食事にこだわらず、外食も行事等として取り上げていきたい。頻度も多くしグループホームらしさを出していきたい。	個別でも良いので少しずつドライブがてらの外食や2ヶ月に1度全体での外食等取り入れていく。	1年
3	45	食事について現在は様々な献立を考え季節に合った旬の物等取り入れたり、月に1回程出前を頼むなど行っているが、外食など違った環境の中での食事がほとんど取り入れられていない為、入居者様への刺激が不足している。	ホーム内だけでの食事にこだわらず、外食も行事等として取り上げていきたい。頻度も多くしグループホームらしさを出していきたい。	個別でも良いので少しずつドライブがてらの外食や2ヶ月に1度全体での外食等取り入れていく。	半年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401722		
法人名	医療法人社団 向仁会		
事業所名	グループホームよろこびの家 栄景 2階		
所在地	函館市松陰町1-43		
自己評価作成日	平成29年1月8日	評価結果市町村受理日	平成29年2月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0171401722-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジент株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成29年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人一人の要望や意見を取り入れ、したい事・やりたい事をスタッフ支援のもと個別ケアにて外出されたり、スタッフと共に作品を作成したりと、今ある生活に生きがいを持って生活して貰えるよう対応させて頂いております。御家族様にも適時の近況報告を行い安心して頂けるようケアを行っております。日常生活では楽しんで頂けるよう体操・ゲーム等全員で行えるレクリエーションを行っております。食事にも気を使い、利用者様が喜んで頂けるよう味付けにも気をつけております。行事では、外出出来る機会を増やし全員で外出しております。地域の幼稚園やボランティアにも来て頂き、交流出来る機会を設けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員で作成した理念に沿った支援を心がけ、理念の意味を全員で周知し、より良いケアに繋げていけるよう話し合い、実践の中で提供していけるよう支援させて頂いております。御家族様にも見て頂けるよう掲示しております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア活動で近くの高校生が歌・演奏・交流を入居者様に提供して頂いております。その他には幼稚園の園児と歌や体操を一緒に行う等の交流を持っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に柔軟に密着出来るよう、町会長さんとも何らかに参加できる事を話している。町会主催の行事のお誘いがある時は参加できる体制を極力取っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回は運営推進会議を行っている。実践で活かせる勉強会や入居者様と一緒にレクリエーションに参加して頂く等、参加者の意見を聞き質疑応答で情報を共有し、今後のサービスの向上に繋げております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で相談等を行っている。市町村担当者とも連絡はみつに取っております。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会は定期的に行われ、身体拘束について話し合ってます。日中は鍵は開けており、夜間は防犯の為、鍵をかせさせて頂いております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会があり、虐待防止について話し合い、職員同士、理解に勤めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は権利擁護を必要とされる入居者様がいない為、行っておりません。成年後見制度等の研修会には参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様と御家族様に十分納得のいく説明を行った上、契約・解約を行っている。その都度、説明時には疑問がないか確認しております。疑問時には都度納得して頂ける迄説明されてもらっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や苦情相談、窓口担当者を設置して、意見や要望は職員全員が共有し、業務に反映している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員一人ひとりと面談を行い、意見等を聞き、スタッフ会議等で話し合い、職員全員が共有し業務に反映しております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、管理者は職員と人事考課と面談を行い、能力や努力を評価し、尊重し合える環境を作っている。管理者は職員一人ひとりが目標を持ち、向上心を持って仕事ができるよう勤めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修や勉強会があった時には声掛けを行い、参加希望の職員には勤務調整を行い、参加後には勉強会を行ったりと職員が共有し、ケアの向上へと努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	勉強会や交流会を地域ブロックに分けて参加している。法人内外では、パソコンにてメール交換を行い、情報交換を行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・担当者が中心となり、入居者様の不安・趣味・性格を職員間で把握し、その方にあつた会話等を行い、入居者様が不安や悩みを話しやすい環境や信頼関係を築いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・ケアマネジャー・リーダーが中心となり、面談を行い、御家族様が思っている不安要素や困っている内容を聞き、相談・助言を行い、日頃のケアに盛り込むようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様・御家族様が思われているニーズを伺い必要とされる支援、日常生活に必要な支援を第一に考えケアプランを作成し、入居者様の生活歴・経験を活かし、日頃のケアに盛り込んでおります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の経験・知識を大切にし、職員も学ばせて頂いているという気持ちを持ち、家族のような温かさで一緒に生活し、お互いに支え合える環境の中楽しく安心して生活出来るように関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は入居者様を理解し、本人様の意見を尊重し人生の大先輩という気持ちを接遇にて伝えさせて頂いております。入居者様の知っている知恵や知識を教わりながら一緒に過ごす時間を有意義に過ごして頂けるよう心がけております。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の御友人や知人との面会を設けたり、定期的に電話を繋いでいたり、職員・御家族様の協力のもと、思い出の場所に外出し出向かれたり、人や場所との関係や過去に大事にされていたものを途切れないよう努めております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとりひとりの入居者様の性格を把握し、職員が間に入り他入居者様との関係を深めて頂いたり、テーブル・ソファへの座る位置も考え、交友関係を築けるように食事・レクリエーションも全員で楽しんで頂けるように努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてサービスが終了しても入居者様やご家族様には相談等があった際にはお話を聞かせて頂いたり、支援ができる事には対応させて頂いております。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様からは都度日常の中話される暮らしの希望や意見を聞いていける関係作りをし、話された事は日常生活に取り入れるよう職員で改善をしております。御家族様からの希望も取り入れ本人様にとってより良い環境づくりに努めております。		
----	---	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様には入居時や面会時にこれまでの生活歴をお聞きし、入居者様には日常の会話の中から聞かせて頂き、フェイスシートを作成し職員全員が把握出来るように心がけております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で申し送りやカンファレンスを適宜行い、記録を把握し、入居者様のひとりひとりの1日の日常生活の過ごし方や心身の状態とを見ながら適した対応が出来るように努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様や入居者様、必要に応じて医療機関の参加か情報収集を行った後、職員と話し合いや会議を含めたケアカンファレンスを行い、ケアプランを作成させて頂いております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様ひとりひとりの様子やケアの記録は個別に行い、申し送りやカンファレンスにて情報共有し把握し、実践の中で活用の出来るケアを考え話し合いをし、ケアプランを見直し活かしていけるように努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や御家族様からの意見や要望はより良い提供が出来るよう職員と話し合い、取り入れた際には要望にあった対応が出来るように努めております。都度対応が出来るよう御家族様・入居者様からは気軽にこちらからサービスの話をしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで来られる高校生や近くの幼稚園等との交流をし、入居者様に地域の事も把握して頂いております。一緒に楽しんで頂けるよう交流時は支援させて頂いております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族様や御本人様の希望に沿った医療機関に受診や往診を受けて頂いております。かかりつけ医については往診や受診時に普段の状態や様子等、相談し指示を受ける等で関係を築いております。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1度、医療連携看護師による訪問にて健康管理を行っております。適宜カンファレンス時にも参加して頂いております。24時間体制のもと、随時相談時は指示を出して頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入居者様の身体、精神状態、日常生活、病歴等を病院関係者に情報提供しております。御家族様と職員と一緒に担当医からの説明を受け、早期に退院できるよう情報交換しております。担当医・看護師へは受診・往診時に状況報告を行う等の関係づくりをしております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	サービ担当者会議にて入居者様と御家族様の意向を聞き、話し合いで方針を決め、グループホームでできる事を説明し、職員間の共有と支援を考えチームケアにて支援しております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急遽や事故対応に対するマニュアルは作成し、職員がいつでも見れる体制になってます。また、救命救急の講習を受ける等の訓練や全ての職員が把握して迅速な対応が出来るように努めております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や火災報知器、消火器の使い方等、年に2回消防署の協力を得て行っています。避難場所も地域の方に協力を求めて確認を行っています。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様ひとりひとりの性格を把握し、接遇の中で自尊心やプライバシーに考慮にした個々の対応する声掛けを行っております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で入居者様のご自分で決めて頂ける様な雰囲気作りや声掛けを行っております。意見が出てこない際は選択して頂いたり決定して頂けるよう支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者様がしたいこと・やりたいことがあった際には尊重し行っております。買い物・外出等の希望があった際は一緒に予定を決め行きたい所に職員と行かれたり等希望に沿って支援させて頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様には自身で季節にあった服装を選んで頂き、毎日の身だしなみにはこちらからお話し支援させて頂いております。御家族様からは服や下着を持ってきて頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食べ物を献立に入れており、四季折々の料理を提供出来るよう努めております。現在では、食器拭き・テーブル拭き等のお手伝いを主に手伝って頂いております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通しての水分量・食事量を記録し、職員全員で把握しております。ご本人様が飲みたいものがあつた際には飲みたいものを提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアを促しております。出来る事はご本人様に行って頂き、支援が必要な方には声掛け・見守り・お手伝いさせて頂いております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様の一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声掛け、必要に応じて見守りさせて頂いております。ご本人様の自尊心・配慮に気をつけ接遇させて頂いております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘や便通の状態に変化があつた際にはその都度職員間で報告し合っております。便秘にならないよう、日常的に水分摂取を適量飲用して頂き、未摂取時便秘があつた際はこちらから説明し摂取して頂いております。状況に応じて医療連携に報告しております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	1人1人のニーズに対応出来るように職員間で時間帯を決めず、その日の希望のより入浴をして頂いている。希望が聞かれない方には意思を尊重するように声掛けをするよう努めております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日勤帯ではなるべく体操等、身体を動かして頂き、夜間は、ぐっすり安眠出来るように支援をしていく。就寝時間は決めておらず、入居者様が眠りたい時は居室へお連れして休んで頂くように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬は1人1人違う為、ひとりひとりの薬の副作用等をきちんと理解するように努めている。入居者様本人が服薬する時は職員が必ず見守りし、服薬確認を行っている。服薬が自身で出来ない方には職員にて支援させて頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に家事を行ったりする事で、達成感と役割を感じて頂いている。またトランプ・かるた・体操・歌等のレクリエーションを行う事でコミュニケーションが増えるように支援している。入居者様自身が行いたい事があった際には個別にて支援させて頂いております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や希望には散歩やドライブへお連れしている。その他にも不穏等が見られた時には気分添加に散歩等し、外の空気を感じリラックスをして頂いている。外出時には体調の確認を行っており、車椅子で行かれる入居様にも近所の散歩等、地域の人達と協力し合い、外出しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行かれ、ご自分で支払いが出来る方であっても見守りを行っている。自分でお支払いが出来ない方については職員が代わりに支払いを行う等、支援させて頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望でご家族や友人に電話を掛けたい時等、支援している。手紙が届いた時には読んで差し上げたり、代筆を行っている。また手紙を書かれた方の投函の支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく落ち着いた雰囲気で作られた居間兼食堂は大型テレビやDVDを設置して、いつでも見たり聴いたりする事ができ、廊下や多目的室にも椅子やソファを置いています。浴室も清潔に掃除を行っており、ゆくゆくと入浴出来るようになっています。トイレもその都度、掃除を行っており、不快感なく利用させて頂いております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士が座ってお話出来るように椅子を置いたり、外の景色を見てお話しが出来るように配慮しております。音楽をかけながら入居者様同士で歌を歌われる等個別ケアでも一人の時間を持つて頂けるように支援しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に入居者様と御家族様に説明し、使い慣れている物や家具等を持って来て頂き、出来るだけ早く施設に慣れて頂けるように家に近くなるよう配慮すると説明を行っております。携帯電話や仏壇を持ち込まれている入居者様もおります。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様も安心して自立した生活がおくれるようにホール、廊下、トイレ等はバリアフリーになっております。家庭用エレベーターも配備されています。		

目標達成計画

事業所名 グループホームよろこびの家菜景 2階

作成日: 平成 29年 2月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	13	職員を育てる取り組み	職員全員が報告・連絡・相談が出来、入居者様の立場に立って考え・接遇・受容・傾聴をしっかりとし、職員間で共有しより良いケアとして取り入れる。わからない事をわからないままにしないよう全員でケアの質を向上するように努める。	入居者様の日常生活の中での報告・連絡・相談を密に行う事で、入居者様の性格・状況把握をしっかりとし、本人様の気持ちを取り入れケアの質を高めてけるよう努める。入居者様の接遇面でも現状以上に気を付け、もうひとつの家族のように接していくよう努める。自身で勤勉をし、周りに説明をする等全員が教え、教われる環境作りに努める。	1年間
2	34	急変時や事故発生時等の備え	急変時・緊急時の対応等は研修会で受講しているが、入居者様の様子の変化に気づきや状況把握が出来る。日常生活の中、意識し観察するように努め、早急な対応を心がける。事故発生時には状況を考え各自の役割を把握し行う事が出来る。	今後も研修への参加の促しを行う。入居者様が安心して過ごしていけるように職員全員が入居者様の状態・生活把握を密に情報収集し、共有出来るよう心掛ける。急変時・事故発生時の対応はチームで連携し、各自の役割を早急に対応出来るように勉強会を開き、実践して覚えていく。全員が行えるようにしていく。	1年間
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。